

<事業名> 無農薬インターアクト米の稲作

団体名	兵庫県立豊岡総合高等学校インターアクトクラブ
所在地	豊岡市
代表者名	岩本 敏浩

事業内容	<p>豊岡総合高校インターアクトクラブが地域の諸団体と連携し、6月～9月の間に昔ながらの農業で稲作をします。素足で圃場に入り、手植えの田植えをしました。無農薬のため除草、害虫駆除、酸素・栄養補給などのためのアイガモ農法のアイガモを放鳥しました。無農薬圃場の生物調査や環境整備をします。稲刈りをしました。収穫されたお米は、東北、熊本の災害被災地や地域の特別支援学校、子ども食堂、釜ヶ崎のホームレス支援に送りました。豊岡での環境に関する発表会で報告をしました。</p>		
	日時	内容	場所
	6月 5日午前	アイガモ放鳥	インターアクト米圃場
	6月 5日午前	生物環境調査	インターアクト米圃場
	7月10日午後	生物環境調査	インターアクト米圃場
	9月 5日午前	稲刈り	インターアクト米圃場
	11月 3日終日	収穫祭	竹野子ども体験村
	1月21日午後	但馬の環境保全を考える事例発表会	但馬文教府
地域	豊岡市		
事業の効果	<p>(1) 団体（組織）内の効果</p> <p>昔ながらの農業の稲作を通じて、小学生、中高校生から大人までの異世代の交流が活発となり、参加者が活性化されました。また、日本人と外国籍及び外国人との異文化交流ができました。泥まみれ、汗まみれとなり用水路で足を洗い、笑顔に満ちた田植えとなりました。天候不順により、農家による稲刈り機での稲刈りは残念でしたが、例年通りの収穫ができて良かったです。</p> <p>アイガモの放鳥や生物・環境調査により、無農薬稲作の意義を感じ、普及活動の一助となることができました。アイガモを放飼することにより、雑草や害虫を餌として食し排泄物が稲の養分となり、化学肥料、農薬の不使用によるコストの低減および、化学肥料による稲の弱体化を回避ができ、病虫害の低減ができました。また、アイガモが泳ぐことにより土が攪拌され根を刺激し肥料分の吸収が良くなるなど、中耕により稲穂の成長を促進する効果があり、アイガモが水田にいる様子を見せる事で、毒性の高い殺虫剤などが使用されていないことを分りやすく提示できました。</p> <p>参加者で作ったお米は、無農薬の非常に美味しいお米でした。東北、熊本などの被災地の人たちや地域の特別支援学校の児童・生徒たちの舎食や子ども食堂の利用者にとっても有益なお米となりました。</p> <p>収穫祭（反省会）では放鳥したアイガモを精肉して、スキ焼にして食することで生命の尊厳、感謝を考えることができました。</p> <p>(2) 地域への波及</p> <p>農業後継者の不足は深刻な問題です。ましてやアイガモ農法のように手間のかかることをする農家も減少しています。アイガモ農法をする農家は、旧豊岡市内で2件3か所だけです。この農法の理解をすることや、広く広めることはとても大切なことです。また、このインタ</p>		

	<p>一アクト米の稲作は、SDGsの観点からも重要であり、17項目すべてに該当します。</p> <p>高校生の活動をマスコミも注目してくれ、テレビ、新聞などの取材も複数あります。それを地域で広めることで現代社会の農業を考えて頂けています。今年度も、各種コンテストでも受賞をすることができました。第4回高校生ともしびボランティア顕彰、第11回eco-1グランプリ近畿大会出場、第8回全国ユース環境活動発表大会など県内、近畿の受賞ではありますが、ユニークな活動の評価は高いです。</p> <p>地域の子ども食堂や特別支援学校の舎食にインターアクト米を使っています。非常に評判も良く、特に特別支援学校ではこのインターアクト米だけはお替りが許されているようです。</p> <p>対面に向かい合う交流や活動をしながら対面しない活動でも、田植え、調査、食事など共有する活動を通じて、参加者はより深い交流を育むことになりました。</p>			
事業経過	月 日	実施内容	場 所	参加人数
	6月4日	アイガモ放鳥準備	池上農園	3人
	6月5日	アイガモ放鳥	インターアクト米圃場	25人
	6月5日	生物環境調査	インターアクト米圃場	15人
	7月10日	生物環境調査	インターアクト米圃場	15人
	7月27日	収穫祭打合せ	竹野子ども体験村	2人
	9月3日	稲刈り 雨天のため中止判断	インターアクト米圃場	2人
	9月5日	稲刈り	インターアクト米圃場	3人
	10月5日	インターアクト米発送準備	県立豊岡総合高等学校	16人
	11月2日	収穫祭準備	竹野子ども体験村	3人
	11月3日	収穫祭	竹野子ども体験村	68人
	11月3日	インターアクト米発送準備	竹野子ども体験村	15人
	11月4日	インターアクト米発送	豊岡千代田郵便局	1人
	1月18日	但馬の環境保全を考える事例発表会準備	県立豊岡総合高等学校	8人
	1月21日	但馬の環境保全を考える事例発表会	但馬文教府	7人
協働の相手	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡ロータリークラブ ・豊岡ロータリーアクトクラブ ・にほんご豊岡あいうえお 			
今後の課題等	<p>(1) 団体(組織)活動を継続するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑な経費の活用：予算のほとんどを地域活動応援事業に委ねているのが現状です。将来的にはクラウドファンディングのような形も模索していますが、実現に向けて困難が蔓延っています。 ・組織力：高等学校の一つの同好会が主催をしていますが、脆弱な組織なうえ顧問がいなければできなくなる可能性が高いゆえに、年度末の人事で左右されています。実行委員会の形式がとれたらいいかとも考えています。 ・広報：積極的に発表会やSNSで広げることで参加生徒のモチベーションを高めたいと考えています。 			

(2) 地域活動を拡大していくための工夫等

・広報：現在、マスコミにも注目を浴びてテレビ、新聞などで取り扱っていただけています。SNSの発信も学校から行っています。しかしながら、農家のかたに関心を抱き、若手のアイガモ農家の育成などにはつながりません。JAや地域へのイベントに積極的に参加し、広報をしていきたい。



4年7月10日 生物環境調査



4年7月10日 生物環境調査



4年11月3日 収穫祭



4年11月3日 収穫祭



4年11月3日 発送準備



5年1月21日 但馬の環境保全を考える事例発表会